研究計画書②（若手研究者枠）

４.研究目的、研究方法など

|  |
| --- |
| 【研究の目的】　本欄には、研究の全体構想及び具体的な目的について簡潔に記述する。（特に下記の点を記載すること）1. 研究の学術的背景
2. 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか
3. 本研究の学術的な特色
 |

《研究の学術的背景》

※書類提出時、記載のポイント（赤枠）はすべて削除してください。

・理解を助けるため、または印象づけるために、図を効果的に使用することも可能です。ただし、白黒印刷でもわかるものを使用してください。

・読みやすいように小見出しや強調すべき箇所に太字、下線、イタリックなどを活用してください。

・略語・専門用語や最新技術の用語を使用する場合は、専門家でなくてもわかりやすいように記述し、説明は冒頭で行ってください。

・段落末に行を追加し、視覚的に見やすい工夫をしてください。

・行が足りない場合は追加可能です。

《研究期間内の到達目標》

《本研究の学術的な特色》

４.研究目的、研究方法など（つづき）

|  |
| --- |
| 【具体的な研究計画・研究方法等】　本欄には､研究目的を達成するための具体的な研究計画･方法について簡潔に記述する｡(特に下記の点に留意すること)1. 令和元年度の計画について、焦点を絞り具体的かつ明確に記述
2. 研究計画を遂行するための研究体制について記述。また、研究分担者がいる場合は、研究代表者と分担者の具体的な役割、学術的論点からの研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性について記述
 |

《令和元年度の研究計画・研究方法》

《研究体制》

【研究経費の必要性】

　本欄では、「研究計画・研究方法」欄で述べた研究体制等を踏まえて、研究経費の必要性について記述する。

特に設備備品費が当該年度の研究経費の５０％を超える場合は、積算根拠及び必要性（内訳等）を記述する。

《経費の必要性》

|  |
| --- |
| 【今後の研究の発展性（科研費の申請等）について】　本欄では、当プログラムに記載の研究目的が達成された後の、同一テーマにおける研究内容の展開や外部資金等への具体的な申請予定について記述する。科研費への申請を予定している場合は、下欄に申請予定の種目名と申請予定時期（年度）、研究課題名を記述する。 |
|  |
| 申請予定の科研費の種目 |  | 申請予定時期 | 　　　　　　　年度 |
| 研究課題名 | 研究課題名は、現段階で予定しているものを記載してください。（仮題でも可） |

　５.研究代表者の主な研究業績（直近４年間）

|  |
| --- |
| 本欄は、これまでに発表した論文、著書、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼって５件程度記載する。なお、学術誌へ投稿中の論文を記載する場合は、掲載が決定しているものに限る。研究業績については、主に2015年以降の業績を記載する。ただし、それ以前の業績であっても、本研究に深く関わるものであれば記載してもよい。記載例：発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)※上記の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。※著書の場合、単著または共著，分担執筆を記載すること。※著者が複数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略（省略する場合、その員数と記載されている順番を○番目と記入）しても可。なお、当人の氏名に下線を引くこと｡ |
| 発表年 | 発表論文・著書・招待講演 |
| 2018以降 |  |
| 2017 |  |
| 2016 |  |
| 2015 |  |